

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	令和 8 年度第 1 回近江八幡市社会教育委員の会議		
開催日時	令和 8 年 6 月 2 9 日（月） 1 4 : 0 0 ～ 1 5 : 3 0		
開催場所	本庁舎 3 階 特別会議室 1		
出席者 会 長◎ 副会長○	＜社会教育委員＞ ◎大橋委員 小林委員 皆黒委員 戸川委員 吉井委員 山路委員 重野委員 高橋委員 米山委員 牧田委員 仲井委員 ＜説明者・事務局＞ 生涯学習課 包吉次長 万野課長補佐 田中主事 まちづくり協働課 宮崎課長補佐 スポーツ課 辻副主幹 教育総務課 秋山専門員 学校教育課 河野課長補佐 人権・市民生活課 中川課長補佐 図書館 奥村専門員 文化振興課 才本課長補佐		
次回開催予定日	令和 8 年 1 0 月		
問い合わせ先	所属名・担当者名： 近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課 田中 電話番号：0 7 4 8－3 6－5 5 3 3 Fax番号：0 7 4 8－3 6－5 5 6 5 メールアドレス： 045000@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録・要 約	要約した理由	内容が整理され、記録として残すことに適しているため

事務局 委員長 委員長	1. 開会 (1) 委嘱状交付 (2) 挨拶 (3) 自己紹介 2. 各役員について 委員長：事務局案 大橋委員 副委員長：事務局案 中江委員 3. 諮問について 4 (1) 令和7年度近江八幡市生涯学習推進実施計画進捗管理について 説明について、質問や意見がありましたらお願いします。 来年度から計画が変わりますので、その参考としていただければと思います。 まず、先ほど達成度について評価をいただきましたが、この進捗管理における評価基準は、私から申し上げますと極めて曖昧で、本当にこれで評価できているのかという思いがあります。非常に厳しい言い方になりますが、そのように感じております。 例えば、「目標を上回って達成」という評価は分かります。仮に目標値が100であれば、それを上回る100以上ということは想像できます。しかし、その後の「ほぼ達成」が何パーセントを指すのか、「やや達成」がどの程度の範囲なのかといったことが全く分かりません。私にはその基準が理解できませんので、この評価は、ある意味では評価自体が無意味になってしまいます。したがって、この点は改善していただく必要があると思います。 一例ですが、私はある自治体で教育関係の事務事業評価に長年携わっております。その自治体では、数値目標を設定している事業については、評価を数値化しております。 例えば、A評価は目標達成率90%以上100%以下、B評価は70%以上90%未満、C評価は50%以上70%未満、D評価は50%未満というように区分されています。このように数値化すれば、おおよその評価基準が明確になります。しかし、現在の資料では言葉だけで示されておりますので、基準が全く分かりません。 はっきり申し上げますが、このような評価方法では、恣意的に評価される可能性もあります。客観的な評価を行うという観点からも、このような評価方法は見直された方がよいと思います。 ただし、数値目標を設定していない、あるいは数値化できない事業については、数値による評価は難しいと理解しております。そのような場合は、「達成」「未達成」という表記で評価すればよいと思います。目標を達成できたのか、達成できなかったのかという評価であれば、数値目標がなくても評価は可能です。 例えば、資料1-1を見ますと、数値目標を示しにくい事業として、5番、9番、10番、19番、20番、32番、43番、44番、47番、50番があります。これらは数値化されておらず、「目標を上回って達成」などの達成度評価はできないと私は考えます。
----------------------------------	--

	これが一点目です。 それから、資料 1-1 を見ますと、記載に不備がある箇所もあります。つまり、目標値の欄に記載すべき数値が示されていない事業がいくつかありました。これでは達成度を評価することはできません。 例えば、15 番、16 番、29 番、60 番の事業については、目標値の欄には数値が記載されておらず、令和 7 年度の状況欄には数値が記載されています。これで評価できるのかという疑問を持ちました。私は評価できないと思います。 このような曖昧な点は、今後きちんと是正していただいた方がよいと思いますし、ぜひ改善していただきたいと思っております。
事務局	ただいまご指摘いただいた評価基準や評価方法につきましては、本年度が計画の改定年度でもありますので、ご指摘の内容を踏まえ、しっかりと改善を図り、次期計画における評価方法にも反映してまいりたいと考えております。
委員長	ほかにご意見、ご質問等はございますか。
事務局	4（2）生涯学習社会づくり推進計画の策定にかかる視点について 質問①：20 年前と比べて変わったと感ずることは何ですか。
委員	ありきたりなことしか申し上げられず恐縮ですが、20 年前、私がまだ部活動に携わっていた頃と比べると、地域における人と人とのつながりは大きく変わってきていると感じます。 以前は、地域のおじさん、おばさんなど、子どもたちを見守ってくださる方がおられましたし、地域の運動会などを通じて、世代を超えた交流も多くありました。しかし、現在は共働き世帯の増加や生活様式の変化などにより、そのようなつながりは以前に比べて弱くなってきていると感じています。 私は島小学校の学校運営協議会の委員を務めていますが、地域の皆さんには、地域を大切にしたい、子どもたちを支えたいという思いを強く感じますし、学校としても地域の支えに大変助けられています。 一方で、地域活動の担い手不足という話もよく耳にします。そのため、昔と同じ形に戻すことは難しいと思いますが、今の時代に合った新しい地域とのつながり方を考えていくことが大切ではないかと感じました。
委員	私の場合は、退職した男性のグループ、いわゆる「おやじ連」の活動に関わってきました。 おやじ連を結成して 15 年、現在では 20 年ほどになりますが、大きな転機となったのが新型コロナウイルス感染症の流行です。それまでは継続的に活動できていましたが、コロナ禍以降は人が全く集まらなくなりました。市が事業を実施しても参加者が集まらず、活動自体が中止となり、それ以降は実施されていません。 20 年以上続けてきた活動がそこで途切れてしまい、その後につながる人材も育っていません。年齢を重ねるだけになってしまっているような状況であり、人が集まらないことが大きな課題となっています。何かよい方法があればと思っていますが、この状況はおやじ連だけではなく、どの団体にも共通する課題ではないかと感じています。

委員	自治会やまちづくり協議会でも、コロナ禍以降、行事を実施するたびに参加人数が減ってきています。役員として何とか行事を実施したいと思っても、参加者が集まらず、協力していただける方も少ない状況です。コロナ禍以降、地域のさまざまなことが大きく変わってしまったように感じています。 一方で、これまで続けてきた行事をやめてしまうと、地域には何も残らなくなってしまいます。そのため、規模は小さくなくても、根気強く継続していくしかないという思いで、自治会として活動しています。 また、学校に関しても、子ども会がなくなり、PTA の活動も縮小するなど、時代の変化を感じています。それが必要かどうかは一概には言えませんが、以前は子ども会や PTA がそれぞれ活動していました。しかし、八幡小学校区を見ても、子ども会はほとんどなくなっています。 地域で廃品回収やさまざまな行事を実施しても、子ども会として参加することはほとんどないのが現状です。 こうした状況は、家庭環境や地域の環境など、さまざまなことが変化してきたことが要因ではないかと感じています。
委員	皆様と同じ意見になりますが、私の地域でも少子高齢化が本当に進んでいます。 ちなみに、昨日調べたところ、昨年度の高齢化率は 37%でした。これまでは 40%近い状況でしたが、ニュータウンが整備され、新たな住宅地に住民が転入されたことにより、高齢化率は 37%まで低下しました。 一方で、先ほどのお話にもありましたように、コロナ禍以降、それまで活発に活動していた老人会、婦人会、PTA、子ども会などの活動はすべて中止となりました。老人会についても約 200 名の会員がおられましたが、活動を継続することができず、昨年解散しました。 その結果、地域コミュニティの希薄化が大きく進んだと感じています。また、一人暮らしの高齢者も年々増加しており、その対応が非常に重要であると考えています。 さらに、PTA についても、八幡学園ではすでに活動が終了し、桐原学区の 2 つの小学校でも昨年 PTA が解散しました。 老人会も現在では以前の 3 分の 1 を下回る規模となっており、地域における横のつながりは著しく希薄になっています。各種団体は縮小を続け、地域活動を担う人材も減少しています。 こうした状況は、多くの地域で共通している課題ではないかと思います。このような地域活動の衰退に少しでも歯止めをかけるための対策を講じなければ、このままでは 5 年後、10 年後にはさらに深刻な状況になるのではないかと、強い危機感を抱いています。
委員	少子化は当初の予想をはるかに上回るスピードで進行しており、子どもの数は想定以上に大幅に減少しています。この点は、社会の状況が大きく変化したことを示していると思います。 それと同様に、家族の在り方も変化しています。以前は、一つの家庭で祖父母、親、子どもの三世代が同居していることが一般的でした。そのため、生活の中でさまざまなことが子どもや孫へ自然に伝えられていました。しかし、現在はそのような家庭が少なくなり、家族内での会話も減少しています。その結果、何が正しいのか、

	どのように行動すればよいのかといったことを、小さな子どもたちに伝える機会が少なくなっているように感じます。 また、地域の人と人とのつながりも次第に希薄になっています。以前であれば、隣近所で組があり、地域のつながりがありました。しかし、近年は新興住宅地が増え、そのような地域組織が存在しないところも多くなっています。私の地域でも新興住宅地ができましたが、いまだ自治会が発足していません。自治会を立ち上げようと町内でも努力していますが、なかなか難しい状況です。 このような状況を踏まえると、人間関係が希薄になり、人と人とのつながりもますます弱くなっていると感じます。また、子どもの数が減少する中で、以前にはあまり見られなかったいじめなどの問題も生じてきています。 さらに、私たちは今後さらに高齢化していきますが、地域を支えてくれる若い世代はますます減少していきます。その結果、これまで続けてきた伝統行事だけでなく、地域のさまざまな活動そのものが継続できなくなるものが今後さらに増えていくのではないかと危惧しています。 そのため、私たち青少年育成会としても、今後どこに力を入れていくべきかを考えなければなりません。現在は 60 代、70 代が中心となって活動していますが、これからは子育て世代をはじめとする、より若い世代にも積極的に声をかけ、地域活動に参加していただき、さまざまな経験をしてもらうことが重要だと考えています。 例えば、現在は地域行事が重なることも多く、参加者が減少しています。そのような中で、子どもたちの保護者にどのように参加していただくかについても、さまざまな方法を検討し、参加を呼びかける工夫をしていく必要があります。 こうした取組を進めていかなければ、このままでは地域の将来は決して明るいものとは言えず、不安を感じています。
事務局	質問②：デジタルや SNS とどう関わるべきだと思いますか。
委員	私たちの世代は、デジタル機器や ICT を得意とする人と、あまり得意ではない人とに、大きく二極化しているように感じます。 私は比較的そうした分野が好きな方なので、生成 AI も実際に活用していますが、非常に便利だと感じています。また、SNS は情報共有の手段としても大変便利です。私は新たに同窓会を立ち上げましたが、現在、LINE グループには約 100 名が参加しています。一人ひとりに連絡するのは大変ですが、グループに投稿すれば一度に情報を共有できるため、その点では非常に有効だと思います。 一方で、昨年まで中学校に勤務していた立場から見ると、子どもたちの SNS に関するトラブルは非常に多いと感じています。以前であれば、「使わないように」と指導することもできたかもしれませんが、しかし、現在の時代では、「使うな」という指導だけでは対応できない状況になっています。 また、最近では、新入社員による生成 AI の利用を禁止する企業もあると聞いています。その理由を聞くと、本来であれば時間をかけて作成する資料を生成 AI で短時間に作成してきたものの、多くの誤りが含まれていたということでした。なぜミスが多かったのかというと、生成 AI が出した内容をそのまま正解だと受け止め、自分で内容を確認したり判断したりすることなく提出していたためです。その結果、多くの誤りが生じてしまったということです。 このような話を聞くと、これから必要なのは、単に生成 AI などのデジタルツールを

委員	使えることなく、それらを正しく活用する力を身に付けることではないかと感じます。中学校などの教育現場でも、「使ってはいけない」と指導するのではなく、正しく使う方法を教えることが重要ではないかと思うようになりました。 その一方で、先ほどもご意見がありましたように、実際に顔を合わせて初めて分かることも多くあります。そのため、対面でのコミュニケーション能力もしっかり身に付けておく必要があり、オンライン上のやり取りだけでは十分ではないと考えています。 デジタル技術を適切に活用する力と、対面で人と関わる力の両方を大切にしながら、今後も取り組んでいきたいと思っています。 この２番目の項目を見て、最初に思い浮かんだのは、先ほど話題に出た巨人の阿部監督に関する出来事でした。これからは、あのような事例がさらに増えていくのではないかと感じました。 技術の進歩は非常にありがたいことであり、今後もさらに発展していくと思います。しかし、AI が作成したものをそのまま受け入れるのではなく、それが正しいかどうかを最終的に判断するのは人間です。結局のところ、その判断は一人ひとりに委ねられています。 だからこそ、AI に頼るだけではなく、自分自身をしっかり磨いていくことが大切だと思います。その判断力や人間力は、AI に任せることはできません。人間にしかできないことはまだまだたくさんあると思いますし、そうした部分をさらに大切に、掘り下げていくことで、私たちが生きる意味や価値についても広く考えていきたいと、この２番目の項目を見て感じました。
委員	SNS などのデジタル技術を使いこなしている子どもたちと、それについていくことが難しい私たち大人との間には、大きな世代間の差があると感じています。 しかし、世代を超えてコミュニケーションを図るためには、私たち大人の側も歩み寄り、「SNS とはどのようなものなのか」を理解しようとする姿勢が必要ではないでしょうか。 文化協会には 70 代後半の方もおられますが、そのような方々でも、携帯電話会社などが開催するスマートフォンや SNS の操作講習会に参加し、積極的に学ばれています。私たち大人も、「分からない」で終わらせるのではなく、自ら歩み寄り、新しい技術について知ろうとすることが大切だと思います。 AI を一切禁止してしまうのではなく、正しく理解し、適切に活用することが重要です。そのためには、まず SNS とはどのようなものなのか、何ができるのか、どのような場面で便利なのか、また、どのような危険性や落とし穴があるのかを、私たち大人自身が理解しておかなければ、子どもたちに適切な助言や指導をすることはできません。 もちろん、すべての機能を使いこなせるようになる必要はありません。しかし、年代に関わらず、新しい技術に興味を持ち、さまざまなことを学び続ける姿勢が大切だと思います。 その上で、子どもたちには、SNS や AI は便利なものである一方、人と人とのつながりが大切であることを伝えていく必要があります。また、人間力や、自分自身で考え、判断する力を育てることも重要です。 情報は容易に拡散され、多くの人が共有しているからといって、それが必ずしも正

	しいとは限りません。周囲に流されることなく、自分で考え、その情報が正しいかどうかを判断する能力を培う教育や支援が、これからますます重要になると考えています。
委員	現在、生涯学習講座などで AI をテーマにした取組が行われているのかどうか分かりませんので、もし実施されているようでしたら教えていただきたいと思います。
事務局	一昨日の土曜日に、AI をテーマとした市民大学講座を開催しました。おかげさまで大変盛況のうちに終えることができました。 参加者も非常に多く、満足度についてはまだ集計中ではありますが、講座終了後には活発な質問が相次ぎ、質疑応答だけで 30 分ほど続きました。それだけ関心の高いテーマであることを改めて実感しました。 今後も、このような時代のニーズに合ったテーマを大切にしながら、講座を実施していきたいと考えています。
委員長	私は現在、ある自治体の教育振興基本計画の策定に携わっております。その計画を策定するに当たり、その自治体では一般市民、保護者、教職員、小・中学生を対象にアンケート調査を実施しました。 その結果を見ると、テレビゲームやスマートフォンのゲームの利用時間が非常に増加していることが分かりました。これによって、基本的な生活習慣の乱れが見られることが指摘されています。また、外で遊ぶ機会が減少したことなどにより、子どもたちの体力低下も著しいという結果が出ています。 さらに、スマートフォン依存症とまでは言えないものの、それに近い状態の子どもたちも見受けられます。スマートフォン依存症については、世界保健機関（WHO）においても病的な状態として位置付けられていることから、SNS 等への対応については、学校だけではなく、家庭、地域、行政、医療機関、さらには必要に応じて企業や警察などとも連携を密にしながら取り組んでいくことが、今後ますます重要になると考えています。 また、家庭においては、SNS に関するトラブルが多く発生していることから、家庭内での利用ルールを定めることが重要であると思います。学校においても、情報モラル教育を推進することが大変重要であると考えています。 この問題については、非常に慎重に取り組まなければ、子どもたちに大きな影響を及ぼす可能性があります。そのため、そうした点を十分に踏まえながら、SNS に関する教育的な配慮を行っていただきたいと思います。
委員	今お渡しいただいた内容について補足させていただきます。 小学校・中学校においては、「スマホ安全教室」のような取組を実施しております。内容についても、通信事業者の方に来ていただいたり、場合によっては大学教授に講演をお願いしたりするなど、さまざまな形で実施してきておりますので、そうした機会自体は既に設けられております。 ただ一点、ルールづくりについて知っておいていただきたいことがあります。家庭でのスマートフォンの利用ルールについては、「親と子どもでルールを作っている」と回答する割合が約 9 割である一方、「子どもが親と一緒にルールを作っている」とする割合は約 1 割程度にとどまっているという状況があります。 ただし、購入時にはルールがあっても、その後に実態が変わってしまうというケー

事務局	スもあるのではないかと思います。そのため、このルールづくりのあり方については、引き続き大切に考えていく必要があると感じております。
委員	質問③：どんな大人・若者が地域に増えてほしいですか。 若者として考えると、やはり先ほどから出ているように地域のつながりが弱くなっていることや、SNS などの課題があることを踏まえると、地域としっかりつながることのできる人材が育ってほしいと感じています。 特に島小学校では、地域学習などの取組が非常に盛んに行われており、そのような教育を通じて地域との関わり大切さを強く感じています。 ただ、現状では子どもたちは「地域に支えられている」という認識にとどまっている部分があると思います。今後は、「自分も地域を支える一員である」という意識へと変わってほしいと考えています。 そのためにも、そうした人材の育成が必要だと感じています。
委員	大人と子どものコミュニケーションはなかなか難しく、特に親子間でも同様の課題があると感じています。 昨年度、私の学校区において、青少年国民会議が主催する「社会を明るくする運動」の一環として、子どもたちが作文を書き、優れた意見を発表した児童と大人が意見交換を行うディスカッションの場が設けられました。参加者は約 100 名ほどでした。 その中である児童から、大人だけで実施している避難訓練に子どもも参加させてほしいという意見が出されました。この意見をきっかけに、その内容が学区全体に広まりました。 その後、各自治会へ協力を依頼し、地域としての取組を検討することとなりましたが、結果として今年度は複数の自治会において、子どもを交えた避難訓練を実施する動きが見られるようになりました。 このように、大人と子ども、親子間の家庭内コミュニケーションやどのように確保していくかが重要であると考えています。
委員長	郷土への愛着や誇り、いわゆるシビックプライドを持ち、将来もこの地域に住み続けたいという思いを持つ人が増えていけばよいと考えています。 こうした方々は、地域に対して関心を持っておられる方が多く、地域課題の解決の担い手にもなり得る存在であると思います。 そのため、大人も若者も含めて、こうした意識を持つ人が増えていくことは望ましいことだと考えています。 加えて、少子高齢化社会に関する記述の中で「高齢化」という言葉は出ているものの、「高齢者」という言葉が一切見当たりません。提示いただいた資料においても同様であり、「高齢者」という表現が一言も使われていない状況です。 しかし、社会教育の観点からすれば当然高齢者も対象に含まれるべきであり、また「人生 100 年時代」との記載があるにもかかわらず、高齢者に関する記述がないのは不自然であり、理解し難いと感じております。 そのため、この点については、私を含め多くの方が同様の認識を持つのではないかと思いますので、高齢者に関する項目を設けるなど、何らかの対応や対策を講じ

事務局 委員長	ていただきたいと考えております。 また、もう一点、資料中の表現についてですが、「人材」という言葉が使用されております。この点について少し違和感を覚えております。 私は以前、別の会議でも申し上げたことがあります、「人材」という表現については、本来「財」の字を用いるべきではないかと考えております。 これは、故・大森彌東京大学名誉教授が地方自治・行政学の立場から述べられていた考えでもあります、「人材」の「材」は鉄材・木材・食材などのように材料を意味するものであり、目的に応じて加工可能なものを指します。しかし、人は材料ではなく、感情や思考を持ち、経験や学習、訓練を通じて成長する存在であります。 地域で活動する人々は、行政関係者も含め、地域にとってかけがえのない存在であり、単なる材料ではなく財産であると捉えるべきだと考えます。 そのため、「人材」ではなく「人財」と表記の方が適切ではないかと考えております。「人財」という表現は辞書には必ずしも掲載されていないかもしれませんが、例えば「共同」という言葉もかつては辞書にない表現でしたが、現在では一般的に用いられております。 このように、言葉の定着という観点からも、「材」ではなく「財」を用いることは意味的にも適切ではないかと考えております。 今回いただいたご意見やキーワードにつきましては、一度事務局において整理させていただき、第2回会議において案として皆様にお示ししたいと考えております。 4（3）策定スケジュールについて 説明について、質問や意見がありましたらお願いします。 5. 連絡事項 6. 閉会
-----------------------	---